初七日

しょなぬか

ピクニックに行って、野草を摘んでいた小学校低学年の女の子が、「さあ、お父さんお母さんにバイバイしなさい」と、野原に向かって手の小さな花束を振りました。その心やさしい言葉を聞いたとき、女の子のお母さんは、わけもなく胸があつくなったといいます。

一茎の野草にだって、父母がなければ可憐な花をつけることはできません。そしてその花もまた、それ自身がお父さんお母さんになって、種を後世につたえていく営みにほかならなかったのです。世の生きとし生けるものすべて、こういういのちのなかに生かされて在ります。

無量寿

三百年も四百年も前まで、ご先祖の名がはっきりしているという家があります。が、それから先は不明で、遠祖のもっともらしい名もアテになりません。けれども、わからないから、信じられないからご先祖がなかったわけではなく、何千年も何万年も、いや人類発祥以前からのいのちを、いま、私たちは、いただいているのです。

無量寿――「限りないいのち」とは阿弥陀如来のお徳の一つをあらわす真実の言葉です。